

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会大腸がん部会  
鳥取県健康対策協議会大腸がん対策専門委員会

- 日 時 令和3年1月23日（土） 午後1時40分～午後2時50分
- 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 21人  
渡辺健対協会長、八島部会長、濱本委員長、秋藤・岡田・尾崎・兼本・  
瀬川・田中・富田・細田・柳谷・山本・萬井各委員  
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：小林室長、岡 係長、田中主事  
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣課長、葉狩  
オブザーバー：松本岩美町主任保健師

【概要】

・令和元年度は受診率30.4%、要精検率9.0%、精検受診率は77.9%、がん発見率0.33%、陽性反応適中度3.7%であった。受診率、要精検率、がん発見率、陽性反応的の度はいずれも平成30年度比を上回った。特に発見がんは前年度比20人の増加となった。

要精検率は国が示す許容値を上回っているが、がん発見率、陽性反応適中度は国の許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。

・令和元年度検診発見大腸がん確定調査の結果、確定癌190例（地域検診47例、施設検診143例）、腺腫2例、その他4例であった。そのうち早期がんは127例、早期癌率は66.8%であった。平成30年度に比べ確定癌が20例増加し、そのうち早期癌率が4.4ポイントも増えている。

・国立がん研究センターが2019年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。

鳥取県の男女計の死亡率は、2019年は79.7（昨年72.2）となり、昨年の全国30位

からワースト3位。計画策定時の基準指標（2015年死亡率88.1）に比べると、死亡率は減少している。

挨拶（要旨）

〈渡辺会長〉

健康対策協議会の会議は、今年度、テレビ会議を使うことが多くなっているが、本日は、委員会終了後、検診従事者講習会を予定しており、新型コロナウイルス感染予防対策をしっかりと講じながら、本会館に参集しての会議とさせていただいた。

県内の新型コロナウイルス感染者は、昨日までで累積で189名を数えている。特に昨年12月の下旬以降の全国の急激な拡大とともに、当県においても、急激な感染の拡大があり、クラスターを伴う事例も数件発生している。コロナ対策は、今年度だけの課題ではなく、来年度以降も中長期的に取り組む課題と思われる。この中で、今年2月下旬からワクチン接種が開始されることで明るい見通しが開けてくるのではと期待される。

さて、本日の会議においては、当県の大腸がん

罹患率、年齢調整死亡率が高いことについて、要因を多面的に分析するとともに、検診のあり方を含め、対策について、さまざまな角度で議論を進めていただければ幸いです。

本日は、八島部会長、濱本委員長のもとで、忌憚ないご意見、活発なご討論をお願いしたい。

#### 〈八島部会長〉

本日は、休日の中、この新型コロナ感染拡大の非常に難しい中、お集まりいただきどうもありがとうございます。

今日は、議題としては令和元年度実績報告が中心となるが、令和2年度においては、がん検診自体は非常に考えさせられる年であったと思っているところである。

今日の予定としては、委員会終了後の講習会で私の方から、特に大腸がん検診、便潜血の基本的な話から、問題点、それから今後の展望について、講演を行うこととしている。

そのあと、症例検討も予定されているので、長丁場となるが、よく検討していただいて、会の運営がうまく行われるようご協力のほど、よろしく願います。

#### 〈濱本委員長〉

本日は足元の悪い中、また、これまで大変な中、お集まりいただきありがとうございます。

鳥取県の方にはとても綺麗に、いつもデータをまとめていただいて、心より御礼申し上げます。

この会が、こういったデータを基にして、ぜひ鳥取県の大腸癌で亡くなられる方を、減らしていくるように、進めていかなければならないと思っている。

それでは本日はよろしく願います。

## 報告事項

### 1. 令和元年度大腸がん検診実績最終報告並びに令和2年度実績見込み・令和3年度計画について〈県健康政策課調べ〉：

田中県健康政策課がん・生活習慣病対策室  
主事

〔令和元年度実績最終報告〕

対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は189,132人で、受診者数は57,476人、受診率は30.4%で、前年度比で0.3ポイント増加した。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数27,903人、受診率36.3%であった。

要精検者数は5,146人、要精検率9.0%で、平成30年度より0.7ポイント増である。精検受診者は4,009人、精検受診率77.9%で前年度と同率であった。精密検査の結果、大腸がんは190人で、前年度比20人の増加となった。大腸がん疑いは6人であった。がん発見率（がん／受診者数）は0.33%で前年度に比べ0.03ポイント増であった。また、陽性反応適中度（がん／要精検者数）は3.7%で前年度に比べ0.01ポイント増であった。

要精検率は東部8.2%、中部8.7%、西部10.0%、がん発見率は東部0.305%、中部0.245%、西部0.405%、陽性反応適中度は東部3.7%、中部2.8%、西部4.1%であった。

要精検率は国が示す許容値7%を上回っているが、がん発見率、陽性反応適中度は国の許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。

（委員からの意見等）

西部の2町村が、要精検率が高い傾向にあるが、委員からは前年度受診歴進行癌が結構見つ

かっているのに、便潜血検査方法、カットオフ値の検討等について指摘があった。

八島部会長より、大腸がん検診は毎年受けることが重要で有効であることがはっきりとしているので、検診を毎年受診してくことが本来は必要との話があった。

過去にも同様な指摘があり、八島部会長より、病院に問い合わせたところ、院内の精度管理は努めておられ、判定に問題はないが、目視のキットを使用されており、このことは病院にも伝え、改善されたと同っているとの話があった。

[令和2年度実績見込み・令和3年度計画]

令和2年度実績見込みは、対象者数189,132人に対し、受診者数は57,577人、受診率30.4%の見込みである。また、令和3年度実施計画は、受診者数59,094人、受診率31.2%を計画している。

[精密検査登録医療機関以外の受診状況について]

令和元年度大腸がん検診において、要精検者が精密検査登録医療機関以外の医療機関を受診した者は31名（県内30名、県外1名）であった。

[平成27年度～平成29年度未把握率について]

未把握率の許容率は10%以下であるが、平成27年度の未把握率10.4%、平成28年度7.9%、平成29年度12.1%で、平成29年度は許容値を上回っている。

平成29年度においては、7市町で10%以上を超えており、平成28年度に比べ未把握率が増加している市町がある。また、特に前年度0.0%から32.8%と大幅な増加が見られた町があった。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：富田委員

[令和元年度検診実績]

地域検診は20,393人が受診し、そのうち要精検者数は1,502人、要精検率7.37%、精検受診率79.4%であった。大腸がんは49人（早期がん33人、進行がん16人）発見され、大腸がん発見率0.24%、

陽性反応適中度3.26%で、前年度とほぼ同様な結果であった。

職域検診は23,705人が受診し、そのうち要精検者数は1,203人、要精検率5.07%、精検受診率51.7%であった。依然として、精検受診率が低いので、受診勧奨が重要であるという話があった。

大腸がんは25人（早期がん15人、進行がん10人）発見され、大腸がん発見率0.11%、陽性反応適中度2.08%であった。

初回受診者の結果は、例年と同様、要精検率が高く、がん発見率も高い結果であった。

[令和2年度実績見込み(令和2年11月30日現在)]

地域検診の受診者数は13,467人、職域検診は17,960人の見込みである。地域検診においては、令和元年度実績の87%ぐらいの実績見込みである。職域検診については、ほぼ例年通りの実績見込みである。

要精検率は、地域検診7.78%、職域検診5.53%であった。

## 2. 令和元年度発見大腸がん患者確定調査結果について：柳谷委員

検診で発見された大腸がん及びがん疑い196例について確定調査を行った結果、確定癌190例（地域検診47例、施設検診143例）、腺腫2例、その他4例であった。そのうち早期がんは127例、早期癌率は66.8%であった。平成30年度に比べ確定癌が20例増加し、そのうち早期癌率が4.4ポイントも増えている。

調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様の傾向であった。

- (1) 性及び年齢では男女とも例年通り65歳以上から癌が多く発見され、70歳代が一番多かった。平成30年度は40歳代から癌が1例発見されたが、令和元年度は5例と増加であった。
- (2) 部位では「R」と「S」が61.5%で、肉眼分類では「2」26.8%であった。早期癌128例の肉眼分類では「Ip」「Isp」が49.2%であった。

- (3) 深達度「m」が42.6%、「sm」が24.2%で、早期癌率66.8%であった。
- (4) Dukes分類は「A」が61.6%、組織型分類は「Well」が62.1%、「Mod」が33.7%であった。
- (5) 治療方法は外科手術が25例(13.2%)、内視鏡下手術71例(37.4%)、内視鏡治療は92例(48.4%)であった。早期癌が前年度より多く発見されていることもあり、がんの内視鏡治療の割合が前年度47.1%に比べ1.3ポイント増であった。
- (6) 逐年検診発見進行癌は20例(東部8例、西部12例)であった。各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。
- (7) 平成29年度、30年度検診発見進行癌の前年度検査結果を調査した。

平成29年度は18例のうち、16例は便潜血検査結果が陰性で、要精検者2例は精検未受診だった。

平成30年度は24例のうち、23例は便潜血検査結果が陰性で、要精検者1例は精検未受診だった。

委員から前年度検査結果を市町村に照会する際に、便潜血検査の定量値についても調べてほしいという意見があったので、次回の調査より行うこととなった。

また、精密検査未受診者の働きかけとして、CTC検査をどういう位置づけで行っていくのか、方向性についてご意見をいただきたいという話があった。

大腸がん検診においては、精密検査受診率の向上が一番重要であるので、受診者への受診勧奨の周知等を今後も引き続き行っていくことが大切であることが確認された。

### 3. 各地区大腸がん注腸読影会及び講習会実施状況について(1月現在集計)

各地区とも、注腸読影会の実績はなかった。

#### 〈東部—尾崎委員〉

大腸がん検診従事者講習会は新型コロナウイルス感染防止のため、開催されなかった。

#### 〈中部—山本委員〉

大腸がん検診従事者講習会は新型コロナウイルス感染防止のため、開催されなかった。

#### 〈西部—細田委員〉

大腸がん検診従事者講習会は3月に西部医師会館で開催予定。

米子市胃・大腸がん報告会、境港市胃・大腸がん検診報告会・症例検討会をそれぞれ年1回ずつ開催している。

## 4. その他

### (1) 75歳未満がん年齢調整死亡率(2019年)の公表について:

田中県健康政策課がん・生活習慣病対策室課主事

国立がん研究センターが2019年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。

○鳥取県の男女計の死亡率は、2019年は79.7(昨年72.2)となり、昨年の全国30位からワースト3位。

計画策定時の基準指標(2015年死亡率88.1)に比べると、死亡率は減少している。

○2017年までの傾向と同様に男女の胃や男性の肺の死亡率が高く、40歳代から60歳代の働き盛り世代の死亡率も全国に比して高い。

○死亡率の増減については、鳥取県は母数が少ないため死亡率の変化が大きくなることから、単年の結果だけでの評価は困難であり、今後の推移をみていく必要がある。

○男女ともに死亡率は全国値よりも高いことから、引き続き、本県の課題である働き盛り世代をターゲットにしたがん対策を推進していく。

(2) 共通資料から：

岡 県健康政策課がん・生活習慣病対策室課  
係長

○平成29年の全国がん登録のデータに基づくがん  
罹患の状況（令和2年4月公表）

平成29年に新たにかんと診断された患者は  
全国で977,393人、鳥取県で4,992人（平成28年  
5,125人）。

人口10万対のがん年齢調整罹患率は、全国  
で388.9。鳥取県は402.7（39位：ワースト9位）  
（平成28年422.3 41位ワースト7位）。

部位別にみると、男女計：①大腸②胃③肺④  
乳房⑤前立腺の順で罹患数が多くなっている。

○国民生活基礎調査による飲酒量、喫煙率、平成  
28年国民健康・栄養調査（BMI、食塩摂取量、  
歩数、野菜摂取量）のデータが示された。

上記説明に対して、委員からは、大腸癌は特に  
男性の死亡の四分の1ぐらいは不適切な飲酒が関

係している。男性の喫煙率は減少傾向であるが、  
飲酒は高い傾向で、全国的な状況で、BMIは男性  
の方が上昇傾向で、女性はあまり変わらないとい  
う特徴がある。

渡辺会長より、飲酒歴の調査が国民生活基礎調  
査等で行われているが、飲酒回数だけではなく、  
1回のアルコールの摂取量等に注目したアンケー  
ト調査した方がいいのではという意見があった。  
県からは、アルコールの摂取量について、独自の  
調査が出来ないが、検討するとの回答があった。

(3) その他

小林県健康政策課がん・生活習慣病対策室課室  
長より、検診の重要性及び生活習慣を見直すこと  
などについて県民への普及啓発を図るため、令和  
2年度の健対協予算を活用し、「がん予防に係る  
県民向けの広報」として啓発を行い、3月に開催  
される総合部会で啓発の案を示して承認頂いた上  
で、啓発を行っていききたいという話があった。

## 大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会

日 時 令和3年1月23日（土）  
午後4時～午後5時10分

場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町

出席者 81名

（医師：80名、検査技師：1名）

岡田克夫先生の司会により進行。

### 講 演

鳥取県健康対策協議会岡田理事 岡田克夫先生  
の座長により、鳥取大学医学部統合内科医学講座  
消化器・腎臓内科学分野准教授 八島一夫先生に

よる「便潜血検査による大腸がん検診の現状と今  
後の展望」について講演があった。

### 症例提示

柳谷淳志先生の進行により、3地区より症例を  
報告して頂いた。

1) 西部（1例）：博愛病院 濱本哲郎先生

2) 中部（1例）：鳥取県立厚生病院 細田康平先生

3) 東部（1例）：鳥取生協病院 森田照美先生